

## 世界の列車トイレ ースイスその２ー

N P O 21 世紀水倶楽部  
清水 洽

スイスは九州ほどの国土に 5,000 k m を超える鉄道網が整備されています。アルプスの山や谷の国では、道路整備による車輸送より鉄道のほうが便利なようで、トラックも貨車に載せ鉄道での移動が実施されています。そのためか鉄道建設は民間の力で整備されましたが、1902 年に幹線を中心に国有化され、5,000 k m のうち約 6 割が連邦鉄道 (S B B) により経営されています。イタリアからアルプス横断のシンプロントンネルの幹線を所有する B L S や中小の路線を持つ民間鉄道が 65 社ほどあります。軌道幅も 600、800、1,000、1,435 mm、電圧も直流 600 V から交流 15 k V と多様です。一部蒸気機関車運転区間以外は全線電化されていますが、民鉄の大部分は赤字経営で連邦からの補助金を得て経営しています。

スイス連邦鉄道 (S B B) の路線は E U の政策に倣って解放され、全列車キロの約 3 % が S B B 以外の鉄道事業の列車です。ジェノバ、ローザンヌ、ベルン、チューリヒの各都市にはフランスの高速鉄道 T G V が、ベルン、チューリヒにはドイツの高速鉄道 I C E が、またイタリア製振り子電車 E T R 4 7 0 がミラノより、スイスおよび南ドイツの諸都市を結ぶ高速鉄道で運行されています。いずれもスイス国内は速度を落とし座席は空いているところは自由席で各国の高速車両に乗車できます。

各国が乗り入れている高速鉄道の列車トイレは真空式トイレ等で汚物は貯留式ですが、インターシティー (I C) や S B B の列車には汚物垂れ流しの車両が多く残っています。

今回は 2,007 年のスイス編に引き続き、N P O 21 世紀水倶楽部理事長の亀田泰武氏からのスイス観光列車の情報と写真とで報告いたします。

### ・ ゴールデンパス・ライン

氷河急行について人気のあるのが最近できたゴールデンパス・ラインです。レマン湖畔のモントルー駅からシュピーツ駅、インターラーケン・オスト駅、マイリンゲン駅経由のルツェルン駅まで全長 254 k m の 3 社の鉄道路線をまたぐ観光列車です。列車はゴールデンパスの名のとおりゴールド色ベースに統一されていますが、直通運転はできません。この路線は M O B (モントルー・オーベルラン・ベルノワ鉄道軌道 1000mm) でモントルー～ツヴァイメン間、S E Z (ジンメンタル鉄道 1,435mm 軌道) でツヴァイジンメン～シュピーツ間、スイスキっての大手私鉄 B L S (レッチベルク鉄道 1435mm 軌道) でシュピーツ～インターラーケン・オスト間、と S B B ブリュエニック線 (国鉄ながら 1000mm 軌道) でインターラーケン・オスト～ルツェルン間の 3 社の私鉄と国鉄線との乗り継ぎのため、最低でも 3 回は乗り換える必要があります。運行は一日に 3 往復で約 7 時間の乗車になります。



写真1 スイス連邦国鉄（SBB）ブリエンツ駅に停車中のゴールデンパス・ラインを牽引するZB電気機関車。国鉄ながら軌道幅は1,000mmです。 亀田泰武氏提供 2009.8.12



写真2 ブリエンツ駅停車中のゴールデンパス・ライン。SBBの車両です。 亀田泰武氏提供 2009.8.12



写真3 ゴールデンパス・ラインの終着駅ルツェルン駅舎 1976.5.29

・氷河急行

スイスで有名なのがこの氷河急行です。マッターホルンの麓ツェルマット駅からベルニナ急行の運行されているサンモリッツ駅までの 269 km を約 8 時間、平均時速 34 km で結ぶ急行です。MGB (マッターホルン・ゴッタルド鉄道) と RhB (レーティッシュ鉄道) の 2 社で運行されています。同じ軌道幅の路線を通っていますが、急勾配をラックレールで登るので電気機関車による牽引です。機関車はディセンティス・ミュンスター駅で交換いたします。2006 年に全車パノラマ編成の 1 等、2 等の車両になりました。食堂車は廃止されましたが、厨房から食事を運んでくれます。座席は自由席と指定席がありますが、日本から指定席を手配しておくのが安心です。8 時間の乗車ですから当然トイレ設備は備えています。真空式の清潔なトイレです。



写真 4 ツェルマット駅で発車を待つ氷河急行

亀田泰武氏提供 2009.8.13



写真 5 亀田氏が乗車された氷河急行最後尾の 1 等車

亀田泰武氏提供 2009.8.13



写真6 1等車両の真空式トイレと洗面器

亀田泰武氏提供 2009.8.13



写真7 氷河鉄道のmatterホルン入口 MGB(matterホルン・ゴッタルド鉄道)とフルカ・オーバーアル鉄道との連絡駅フィスプで出発を待つMGB 登山列車  
奥の左に見えるのが登山電車 2004.8.19



写真8 レーティッシュ鉄道のクール駅、氷河鉄道はここより向きを変えてサンモリッツ駅に向かいます  
亀田泰武氏提供 2009.8.13



写真9 おまけの写真です チューリヒ、ベェルトヘルツリ下水処理所玄関での若かりし頃の私 1976.5.26

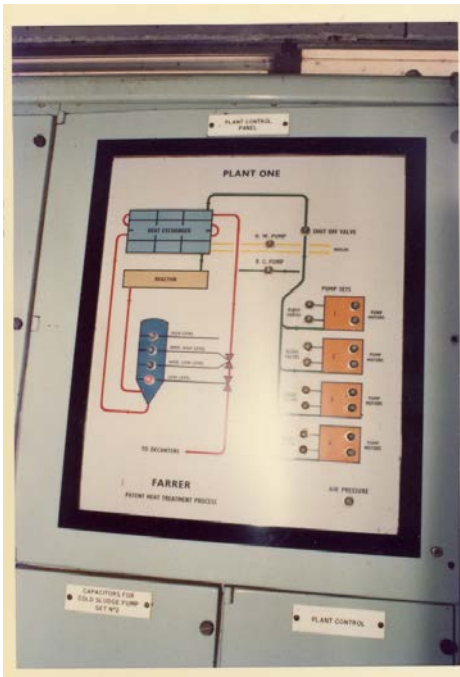


写真10 チューリヒ下水処理場で調査したファーラ方式の下水汚泥高温熱処理法のフローシート 1976.5.26

参考文献

- 1) 「スイス鉄道の旅」 2006.3.24.改訂第2版 (株)ダイヤモンド社
- 2) 最新「世界の鉄道」 2006.7.再版発行 社団法人 海外鉄道技術協会